

チェルノブイリの子どもたち

チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 121 2022年2月25日発行



ベラルーシ「困難の中の子どもたちへ希望を」クリスマス会
(本文 p.2~3)



こちらは気温1~2度で雪が降っています。先週はマイナス14度くらいでした。敷地内も、周りの森もとても美しい雪景色です。湖には厚い氷が張っています。今年に入りナデジダには予定人数の子どもが滞在しています。昨年10月~12月は、新型コロナの影響で予定人数の半分の子どもしか滞在しませんでした。そのため、職員の勤務日数が週5日から4日に減られました。今はすべていつも通りです。これがさらに続くことを願っています。ナデジダではベラルーシの伝統に従い、新年とクリスマス(※ロシア正教のクリスマスは1月7日)のさまざまな催し物が行われました。 2022年1月17日
ベラルーシ・子ども健康回復センター「ナデジダ」

*** 目次 ***

- p.2~3 ベラルーシ「困難の中の子どもたちへ希望を」
- p.4 ウクライナ「内分泌代謝研究所」
- p.5~6 ベラルーシ「ナデジダ」/2022年支援計画
- p.7 「家族保養」参加者からの手紙
- p.8 里親のページ

- p.9 欧州委員会への要望書
- p.10~11 「311 甲状腺がん裁判」を支えよう
- p.12 黒部ドクターのお話
- p.13 チェルノブイリの歌声
- p.14 2021年度決算報告書
- p.15 募金/救援状況

ベラルーシ 慈善団体 「困難の中の子どもたちへ希望を」

世界中がコロナ禍の中、チェルノブイリ被災地からも、子どもやその家族、慈善団体や保養施設のスタッフが新型コロナに感染した、という連絡が届いています。またウクライナもベラルーシも政情不安が続いています。病気の子どもたちへの支援に支障が起きないように、一日も早くすべての状況がよくなることを祈ります。



2021年12月25日、会員の病気の子どもたちのためのクリスマス会が行われました。子ども基金はこの会の開催費用の一部として730ドルの支援を行いました。代表のワレンチーナさんからの報告です。(写真右：中央の女性)

「この日、60人の子どもたちとその家族、団体を運営している大人たちが参加しました。場所は、会員の子ども之母親が働いている専門学校の部屋を借りて行いました。

初めに、亡くなった人々を偲び、黙とうを行いました。会員の男の子一人が病気の再発により亡くなり、また、私たちの団体に長く関わっていた一人の医師と、元会員の子どもの母親二人がコロナ感染により亡くなったのです。

その後、ジェド・マロース（サンタクロース）やクリスマスのキャラクターに扮したボランティアの学生たちによるコンサート、さらに子どもたちのためのダンスプロ

グラムやゲームなどを行いました。また、参加者のために、ピザ、サンドイッチ、果物、ジュースなどを用意しました。そして子どもたちはそれぞれプレゼント（お菓子のセット、果物）を受け取りました。体調が優れない、家が遠いなどの理由で参加できなかった子どもたちには、お菓子の他、果物とジュースを多めに届けました。

子どもたちへのプレゼントとは別に、経済的に困難な状況にある30家族に、食料品（数種の缶詰、米、マカロニ、パスタ、食用油、コンデンスミルク、ジュース、紅茶）を渡しました。コロナ禍を理由に、食料品を支援してくれるスポンサーはとてまもなく、残念でした」

※ワレンチーナさん自身も、昨年12月初めにコロナ感染のため入院しました。血圧や心臓に影響が及び、一時は危険な状態になりました。その間も、彼女の家族や団体のスタッフと連絡を取り続けていました。



その後、無事に退院、しばらくの自宅療養を経て、クリスマス会の開催までに回復しました。

＜参加した家族からの手紙＞

◆12月25日、小児がんの子どもたちのために素晴らしい会を開いてくださりありがとうございます。私たちは家族で参加し、大変楽しい時間を過ごしました。コンサート、コンクール、ゲーム、ダンス、プレゼント、ピザや果物を食べて、子どもたちは笑顔と喜び、前向きな気分で一杯になりました。そんな子どもたちの様子を見て、私たち大人も心が穏やかになりました。「困難の中の子どもたちへ希望を」、「チェルノブイリ子ども基金」のみなさま、その他ご支援くださったすべての方々に深く感謝いたします。
ヤロスラフの家族より

◆「困難の中の子どもたちへ希望を」、「チェルノブイリ子ども基金」のみなさま
病気の子供たちへのご支援、あたたかなお心遣いと優しさに心よりお礼を申し上げます。子どもたちは明るい気分になり、喜びにあふれていました。プレゼントをもらったり、面白いコンクールに参加したりして、はじけるような笑顔でした。みなさまのおかげで子どもたちは楽しい時を過ごし、とても良い思い出になりました。
ヴェーラの家族より

【ベラルーシへの送金の問題について】

昨年、2021年12月、ベラルーシ「困難の中の子どもたちへ希望を」の口座へ、里親支援金や医薬品購入費、事務所の運営費などを送金したところ、2度にわたり送金が拒否されました。銀行からは、「外貨の決済銀行が、International Policy（国際規定）という理由で拒否したため」と説明されましたが、具体的な理由は示されませんでした。ベラルーシの銀行によると、「欧米によるベラルーシへの経済制裁が原因かもしれない」とのことでした。年明け、3度目にさらに別の経由銀行を指定したところ、無事に送金を完了させることができました。いつもでしたら、年内に里親の方へ支援金のご請求をするのですが、今回は1月末にずれ込んでしまいました。今後、同じような問題が起こらないよう、注意していかなければなりません。

写真左：クリスマス会に参加した親子
写真中・右：自宅でプレゼントを受け取った子どもたち



ウクライナ「内分泌代謝研究所」

「内分泌代謝研究所」では甲状腺の手術と治療が行われています。昨年は甲状腺ホルモン剤（エウチロクス 100）2600箱、カルシウム剤（ニコメド D3）800箱を支援しました。2022年は、医薬品費用として20,000ドルの支援を行いました。



チェルノブイリ子ども基金のみなさまへ

甲状腺手術後の患者に対するご支援に心よりお礼を申し上げます。

甲状腺ホルモン剤エウチロクスは、甲状腺の手術を受けた患者たちが生涯にわたり毎日服用しなければならない薬です。昨年ご支援いただいたエウチロクスは、今日時点で534人が受け取りました。甲状腺がんの手術を受け、治療を続けている患者たちです。残りは24箱です。また、カルシウム剤ニコメドは207人が受け取りました。血液中のカルシウム値の低い患者たちに必要なものです。残りは202箱です。

今年2022年のご支援により、エウチロクスを3254箱購入しました。領収書と写真をお送りします。

生きていくのに必要不可欠な薬のご支援をいただいた患者たちはみな、チェルノブイリ子ども基金に深く感謝をしています。

今後もチェルノブイリ子ども基金との関係が続くことを願っています。

所長 N.D. トロニコ
2022年2月4日



子ども基金のシールが貼られた薬が渡された。

写真上：ヴィクトリヤさん（1983年生まれ）
事故当時は3歳。2021年、38歳で手術を受けた。
事故当時から現在までポルタワ州クレメンチュグで暮らしている。

写真中：右、ナタリヤさん（1977年生まれ）
事故当時は9歳。2008年、31歳で手術を受けた。
事故当時から現在までキエフ市で暮らしている。



納品された医薬品、看護師リュドミラさん。

ベラルーシ 子ども健康回復センター「ナデジダ(希望)」

2021年2月号ニュースレターでお知らせした、ナデジダへの緊急支援金10,000ドルについて、その後の報告です。

当初ナデジダはこの支援金を食堂拡張工事費用として使う予定でした。しかしナデジダを管轄する地区委員会が、人道支援金としての取扱いを許可しない、という問題が長引いていました（これは、2020年8月の大統領選挙後に行われた民間人への暴力に対し、職員たちが行った抗議行動と関係しているのではないかとナデジダはみえています）。その後さまざまな方面に働きかけ、対策を練りました。6月には支援金の使用目的を「ボイラー室再建」に変更し、9月に当局からの許可を得て、11月にやっとナデジダの口座へ入金されました。子ども基金の支援金は、ボイラー室再建費用の一部として使われました。

このような問題は、子ども基金だけに起きたのではなく、ナデジダを支援するドイツなども同様で、他の外国のNGOからの支援金を受け取る許可が得られない事態が続いているとのこと。2021年に受け取ることでできた外国からの支援は、チェルノブイリ子ども基金のみだったそうです。一方、ナデジダで開催の、子ども基金を含む外国NGO



による保養プロジェクトにはこのような問題はなく、2021年も例年通り行われました。

ベラルーシの慈善団体への送金の問題もあり（3頁に記載）、気の抜けない状況です。病気の子どもたちや、その子どもたちを支援している団体などに、これ以上影響が起きないようにと祈るばかりです。

＜ボイラー室の再建について＞

所長 V・G・マクススキー

ベラルーシだけでなく、日本を含む世界中でCOVID-19が蔓延したことによる困難な状況の中、チェルノブイリ事故により被災したベラルーシの子どもたちの保養のご支援と、ボイラー室再建のご支援をいただきましたことに感謝いたします。

チェルノブイリ原発事故の影響を克服するための国家プログラムにより、2021年から2025年にかけて、ナデジダに対し、スイミングプールを備えたスポーツ施設の建設資金が割り当てられています。しかし現在のボイラー設備では、この複合施設の運営と機能を開始することは不可能でした。そのためボイラー室に熱出力2.5MWの木材チップボイラーを設置し、再建することが急務でした。

この実現により、スイミングプールを備えたスポーツ施設の試運転と運営ができるようになり、また発電量の増加により、さらに多くの方が施設を利用できるようになります。このスポーツ施設ができると、ナデジダに滞在する子どもと大人のための健康回復プログラムがより充実したものになります。

2021年10月、建設中の建物にボイラーが運び込まれました。ボイラーは非常に大きいため、屋根を取り付ける前に荷降ろしされました。その後、ボイラー室の建設、ボイラーの設置、接続が完了しました（11月～12月）。立ち上げと調整作業は2022年1月に行われました。そして現時点でボイラー室はフル稼働することができます。

スイミングプールを備えたスポーツ施設の工事はほぼ終了しました。公的な書類上の手続きを経て、オープンします。現在、内装や調度類の購入について進行中です。

2022年2月8日



上：ボイラー室工事の様子
下：ボイラー設置後



ナデジダの敷地内でスキーをする子どもたち

★2022年の支援計画★

みなさまの募金のおかげで2021年もチェルノブイリの子もたちへの支援活動を行うことができました（決算報告は14頁をご覧ください）。ご支援に心よりお礼を申し上げます。

2022年は以下の支援を行う予定です。

<ベラルーシ>

●子ども健康回復センター「ナデジダ（希望）」

- ①「腫瘍病の子どものための保養」
- ②「甲状腺がんの手術を受けた親とその子どものための保養」

●慈善団体「困難の中の子もたちへ希望を」

この団体の里子の支援。「希望」で実施する病気の子どものための保養費用、会員の子もたちの医薬品代、スタッフ給料と事務所維持費の一部。

<ウクライナ>

●慈善団体「チェルノブイリの子もたちの生存」

この団体の里子の支援。スタッフ給料と事務所維持費の一部。

- 「汚染地域に住む病気の子どものための保養」：ウクライナ国内の子もたちサナトリウムで実施。

●「内分泌代謝研究所」

甲状腺手術後の患者への医薬品代（p.4をご参照ください）。



里親のページ

チェルノブイリ子ども基金では 1998 年から甲状腺手術後の子どもたちの『里親制度』を開始しました。日本の里親が一人の子どもに対し、月 50 米ドル相当を 2 年間支援していただくものです。2 年後に再度里子の情報をお伝えし、支援の継続・終了を決めていただきます。現在、さまざまな腫瘍病、血液病などの子どもたちが支援を受けています。『里親制度』にご関心のある方は事務局へご連絡ください。詳しい資料をお送りします。ベラルーシの里子の家族から、里親の方へ届いた手紙を紹介します。

* * * * *

Tさんへ

私たち家族はいつも T さんのご支援に感謝しています。こちらは今、新年のお祝いに向けていろいろと準備をしているところです。私たち家族はみな、雪の中を散歩したり、スキーをしたりすることが好きです。ワーリャはソリで遊ぶことや、雪だるまを作ることが好きです。私たちはみんなで雪の中で遊びます。冬というのは素晴らしい季節です。

新年のお祝いを申し上げます。ご健康とお幸せをお祈りいたします。

ワーリャの家族より
2021 年 12 月

Nさんにご家族のみなさんへ

マルガリータの家族より、心からの感謝をこめてお便りを差し上げます。どんな人にとっても困難な今のような時代に、あなたのご支援をしてくださることをほんとうにありがたく感じています。特に、常に治療と健康への注意が必要な病気の子どものためには、大変な時代になりました。子どもたちはよく病気になります。マルガリータと息子イーゴリはすでに COVID-19 に感染しましたが、今は落ち着いています。私たち夫婦は働いていて、上の子どもたちは学校に、下の子どもは保育園に通っています。でもすぐに何かが原因で体調を崩し、母と家で過ごすことが多いです。今日は、長女スネジャーナの 13 歳の誕生日です。新年を迎える準備もしています。

クリスマスと、間もなくやってくる新年のお祝いを申し上げます。ご健康とご長寿、前向きなお気持ちでお過ごしになれますようお祈りいたします。新しい年がご健康と平和、ご好運をもたらしますように。素晴らしい一年でありますよう、幸福をお祈りいたします。

マルガリータの家族より
2021 年 12 月 10 日

Kさんとご家族のみなさんへ

長い間手紙を書かなくてすみませんでした。今年はコロナウイルスで大変でした。私たちは昨年病気になりました。大変でしたがその後回復しました。今リーザの体調は安定しています。9 月に腫瘍センターに検診に行きました。幸いなことに変化はありませんでした。リーザは 6 年生になりました。ピアノとダンスと陶芸の教室に通っています。ピアノコンクールの出場者に選ばれました。勉強もがんばっています。

みなさんの幸福、愛、幸運をお祈りします。ウイルスがあなたの人生の邪魔をしませんように、ご健康でありますように。

リーザの母より
2021 年 10 月

★子ども基金の支援により、2016 年に腎臓移植手術を受けたウクライナのウラディスラフから近況が届きました。

~~~~~

最近風邪をひきましたが、体調はそれほど悪くありません。腎臓の具合は問題ありません。これが僕にとっては一番大事なことです。パンデミックは続いていて、町中でのマスク着用が決められています。今の患者数はそれほど多くはありません。昨年末に家族全員が COVID-19 に感染しました。僕は割と軽症でしたが、両親はより重症でした。今はほぼ回復しています。

さまざまな報道がされていますが、僕の住む町は今のところ平穏です。この状態がずっと続くことを願っています。

ウラディスラフ  
(ジトーミル州オヴルチ市)  
2022 年 2 月 18 日

## 「甲状腺手術を受けた親と子どもの保養」参加者からの手紙

昨年、2021年7月31日～8月13日、ベラルーシ・子ども健康回復センター「ナデジダ（希望）」で開催した「甲状腺手術を受けた親と子どもの保養」に参加した女性から届いた手紙を紹介します。

~~~~~

こんにちは、真理さん。2018年にナデジダでお会いしたエレナです。2人の娘マーシャとダーシャも一緒でした。

2021年8月、私たちはまたナデジダに行きました。あなたに会えなかったのは残念でした。二人の娘と一緒に保養に行く機会を与えてくださったチェルノブイリ子ども基金と支援者のみなさまにとっても感謝しています。健康面でも、また経済面でも困難な時期にある私たちにとって、大きな助けとなりました。

この2週間の保養は、まるで新鮮な空気に満たされたような毎日でした。私と娘たちはサウナやマッサージ、運動療法などにより、元気を取り戻しました。実は、私の父は2021年3月に腸の腫瘍で亡くなりました。発見が遅く、すでにステージ4であり、何もすることができませんでした。このことで私は精神的にとっても疲れていましたので、ナデジダでの保養は心の面でも私を救ってくれました。

保養では多くの素敵な人たちと知り合い、交流し、家族ぐるみでとても楽しい時間を過ごしました。参加者はみな甲状腺手術を受けた人たちで、子どもの頃、病院で一緒だった人との再会もありました。2週間はあっという間に過ぎました。しかし、前向きな感情と記憶は永遠に残ります。



2021年夏 ベラルーシ「ナデジダ」にて
エレナと娘のダーシャ、マーシャ

ナデジダの職員の方々、そして私たちを助けてくださったすべての方々に感謝します。このような困難な時期に、他の人々を助けるための力と時間をさいてくださる方がいることに感謝します。

長女のマーシャも甲状腺に問題があり、内分泌代謝科にかかりながら、チロキシン（甲状腺ホルモン剤）を飲んでいます。ですからこの保養は、私たちの子どもたちにとっても大事なことでした。

新たな年の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。コロナが収束し、いつか会えることを願っています。ベラルーシにいらしたら、ぜひお会いしましょう。私たちは再会を楽しみにお待ちしております。

2022年1月9日
エレナ、マーシャ、ダーシャより

~~~~~

エレナは1983年生まれで、10歳と11歳の時の2回、甲状腺の手術を受けました。手術後1年間は声が出ませんでした。今も少しかすれ声です。手術後は甲状腺ホルモン剤を飲み続けています。現在は看護師の仕事をしながら、ベラルーシのレチツァ市で、夫と二人の娘と暮らしています。

私は2019年までは毎年、ナデジダで保養参加者たちと会っていました。また会いに行ける日が早く来てほしいと思います。（事務局 佐々木真理）



「甲状腺手術を受けた親と子どもの保養」参加者たち。  
向かって左から3番目がエレナ。

「持続可能」でも「グリーン」でもない原発を EU タクソノミーに含めるべきではない

2022 年の年明け早々に驚きのニュースが飛び込んできました。EU の中でもかねてから原子力が発電量の多くを占めている国や、これから原発を建設したい国（フランス、ポーランド、ブルガリアなど 10 개국）と、原発に反対している国（ドイツ、オーストリア、デンマーク、スペイン、など 5 개국）とで原発に対する意見は分かれています。欧州委員会が、気候変動対策などへの投資を促進するための「EU タクソノミー」\*案に原発を盛り込んだというのです。EU 技術専門家の間で反対署名を開始したことを受けて、日本でも国際環境 NGO FoE Japan が欧州委員会に要請書を出すための賛同団体を募りました。チェルノブイリ子ども基金、未来の福島子ども基金も賛同団体になっています。1 月 11 日時点で 261 団体が賛同。以下の要請書（紙面の都合により一部割愛）が、欧州委員会に送られました。全文は FoE Japan の web をご覧ください。

\* 「EU タクソノミー」：気候変動などの環境分野に貢献する事業に投資を促進するための EU 独自の仕組み。いわば、投資家に対して示すおすすめメニュー。

※ ※ ※ ※ ※ ※

2022 年 1 月 11 日  
欧州委員会委員長  
ウルズラ・フォン・デア・ライエン 様

「持続可能」でも「グリーン」でもない原発を  
EU タクソノミーに含めるべきではない

欧州委員会が、気候変動対策などへの投資を促進するための「EU タクソノミー」の案に原発を盛り込んだことについて、原発事故を経験した私たち日本の市民は大きな衝撃を受けています。

原発は、ウランの採掘から原発の運転、廃炉に至るまで、放射性廃棄物を生み出し、環境中に放射性物質を出し続け、持続可能性や環境保全とは真逆のものです。もし、原発が EU タクソノミーに含められ、原発への投資に EU がお墨付きを与えることになれば、EU タクソノミーの信頼が損なわれるのみならず、EU および世界中の人々の将来に大きな負の遺産を残すものとなるでしょう。私たちとしては到底受け入れられるものではありません。

1. 福島第一原発事故は終わっていない

福島原発事故は、チェルノブイリ原発の深刻な事故のわずか 25 年後に発生しました。それまで、日本政府や電力会社は「原発は絶対に安全」として無責任に原発を推進してきました。EU はこうした原発事故の悲惨さに学び、ソ連や日本の二の舞を避けるべきです。（以下略）

2. 原発は深刻な環境汚染や人権侵害をもたらす

原発は稼働し続ける限り、さまざまなレベルの核廃棄物を生み出します。高レベル放射性廃棄物は、地下深くで 10 万年以上も管理が必要だとされているにもかかわらず、日本も、また多くの国々においても、処分地すら決まっています。仮に地下深くに処分しても将来の環境汚染は避けられません。（以下略）

3. 原発は気候変動対策にはならない

以上のように、原発を気候変動対策とすることは、EU タクソノミーの「do no significant harm」(DNSH)：重大な害をもたらさない原則」に反しています。（以下略）

以上の理由から、私たちは原発を EU タクソノミーに含めないよう、強く要望します。

連絡先：国際環境 NGO FoE Japan  
<https://www.foejapan.org/>

【注】1 月 27 日、小泉純一郎氏ら元首相経験者 5 名が、「EU タクソノミーから原発の除外を」という書簡を欧州委員会に送ったとの報道があった。しかし、その書簡の中の「多くの子どもたちが甲状腺がんに苦しむ」という文章に、山口環境大臣、内堀福島県知事が抗議したとの報道。そして、2 月 2 日には、欧州委員会が EU タクソノミーに天然ガスと原子力を含める委任規則案を発表した、との続報も入ってきた。ただ、これは案なので今後、EU 理事会と欧州議会で審査を受けることになるとのこと。今後ご注目ください。

# 甲状腺がんの若者6名が東電を提訴

「311 子ども甲状腺がん裁判」を支えよう

福島第一原発事故後、甲状腺がんを発症した子どもたちは293名。しかし福島県も国も「原発事故の影響とは考えにくい」、「原発事故が原因だというのは風評被害を煽ることだ」と主張し続けています。子どもたちは自分たちがなぜ苦しまなくてはならないのか、その理由もわからないまま、友達にも手術したことを隠すなど沈黙を強いられてきました。

1月27日、様々な圧力や嫌がらせが予想される中で、事故当時6歳から16歳、現在17歳から27歳の6名が、勇気を振り絞って東電を提訴しました。チェルノブイリ子ども基金もこの子どもたちの闘いを全力で支えていきたいと思っています。

## ◆甲状腺がんによる深刻な状況

6名のうち2名は甲状腺の片側を切除、4名は再発により全摘し、放射線治療を実施または予定しています。4回手術した人や肺に転移した人もいます。治療や手術のため希望する仕事に就くことを断念した方、大学を中退した方、退職した方もいます。再発、結婚、出産などへの強い不安を抱えて今暮らしているのです。

その一人、福島県中通り地域の26歳の女性は、原発事故直後の2011年4月に高校に入学しました。片道40分も歩いて通学、外で体育の授業も行ったのです。そして2013年3月、高校2年生の時に検査で甲状腺がんと伝えられました。「手術しないと23歳まで生きられないかもしれない」と言われ、甲状腺を半分摘出する手術を受けました。しかし半年後、再び検査を受けると、「残った片側に再発が見られる。肺にも影が認められる」と医師に告げられ泣き崩れたそうです。その後入学していた大学も退学し、治療に専念しました。

2度目の手術の後、肺に転移した甲状腺がんをたたくための放射性ヨウ素治療を3度も受けたのです。甲状腺は、ヨウ素を取り込みホルモンをつくる器官です。細胞が異常化した甲状腺がん細胞が肺に転移しても同じ性質を持ち続けます。そこで放射性ヨウ素を服用し、それを取り込んだがん

細胞の内部からの放射線でがんを破壊する治療法です。しかし服用した放射性ヨウ素から強い放射線が出るので、他の人は近づけません。

私が以前訪問したウクライナの内分泌代謝研究所(p4をご参照ください)でも、甲状腺がんの子どもたちにその治療を行なっていました。治療室を見せていただきましたが、治療期間中は親も医師も近づけず、食事は小窓から差し入れられるだけ。子どもだけで何日も、孤独な中で過ごさねばならないのです。

福島の彼女もまた、鉛入りの窓から外を眺めてひたすら耐えたそうです。

東京新聞のインタビューに応じて母親は、「がんだから長くは生きられないと冗談めかして繰り返す娘の言葉に胸がつぶされる思いがした。1日たりとも娘の体を考えない日はない」と語っています。彼女自身は、再発や転移の不安から、希望する職で正社員になることを諦めてきました。しかし「このままなかったことにされたくない」、「事故が関係ないなら、なぜこれほど甲状腺がんの子が出ているのか。今後もなる子がいるかもしれない。今できることをしなくては」と考え、提訴に踏み切ったと語っています。

(東京新聞 1月19日の記事をお読みください。  
<https://www.tokyo-np.co.jp/article/154986>)

## ◆「311 子ども甲状腺がん裁判」の意義

この裁判は、原発事故に伴う放射線被曝と病気との因果関係を裁判所に認めてもらい、被害者への補償を求めるものです。さらに、この裁判の先には、全ての患者が救済されるよう、新たな制度を実現し、甲状腺がんという病気と長く付き合っていかなければならない患者が将来的に安心して過ごせることを目指しています。

国や福島県は、甲状腺がんの発症が通常より数十倍多いとしながらも、福島原発事故による被曝線量は、チェルノブイリと比べてはるかに低いとして被曝との因果関係を否定しています。さらに精密な検査により、治療の必要のないがんを多数

見つけている「過剰診断」が起きているとの可能性を指摘し、検査縮小を画策しています。(2021年10月29日発行の基金ニュース120号 p.11 『福島県の甲状腺がん検査の縮小を許すことはできません』をご参照ください。)

それに対し弁護団は、6人を含む子どもたちに見つかった甲状腺がんの多くがチェルノブイリ原発事故で小児・若年層で確認された乳頭がんであり、遺伝性ではなく被曝以外の原因は考えられなとし、次のように主張しています。

1. 原告らは全員相当量の被曝をした。
2. 甲状腺がんの明らかな危険因子は放射線被曝である。
3. 原発事故後の福島で小児甲状腺がんが多発している。
4. 原告らは全員乳頭がんである。
5. 原告らの甲状腺がんは進行して手術、再手術に至ったのであって、症状がなく死亡後初めて見つかる「ラテントがん」ではない。

このことから、原告が甲状腺がんを発症したのは、東京電力の事故が原因である蓋然性が極めて高いとし、被告(東電)側で、原告らのがんが被曝以外の原因によるものであることを立証しない限り、原告らのがんの原因は事故による被曝であると認められるべきである。

弁護団によれば、訴訟上の因果関係の立証は一般的には「特定の事実が特定の結果発生を招いた高度の蓋然性」を証明することとされていますが、公害訴訟の判決では、原告住民側が公害物質によって健康被害を生じた蓋然性を証明すれば、被告企業側がそれ以外の原因を証明しない限り、因果関係を認めるという判断が積み重ねられてきているそうです。この裁判もその判断枠組みを主張し、弁護団は闘うのです。

そして原告たちは10歳代で発病し、進学や就職、結婚、出産などに困難をきたし、将来の夢を描くこと自体を諦めてしまった方もいることから、原告らが奪われたのは、ごく普通の人生そのものであると訴え、賠償を要求します。

訴訟の争点を弁護団は6点にまとめています。

- (1) 被曝と病気との因果関係が認められるか。

- (2) 原告らが事故によって相当量の被曝をしている以上、被告側において原告らのがんが被曝以外の原因によるものであることを立証すべきである。

- (3) 被曝によって未成年ががんを発症するという深刻な損害が生じている。

- (4) 内部被曝をめぐる訴訟で、広島「黒い雨」裁判、長崎被爆地域拡大訴訟と類似する。

- (5) 原発事故と甲状腺がんの因果関係を扱う最初の裁判である。

- (6) 本訴訟が、福島原発事故の他の避難者訴訟に影響を与える可能性がある。

弁護団長は、金沢地裁裁判長時代に「志賀原発運転差止訴訟」で差止め判断をした井戸謙一弁護士。副団長は脱原発弁護団全国連絡会共同代表の河合弘之氏と海渡雄一氏。さらに東電刑事裁判や東電株主代表訴訟、子ども被曝や避難基準をめぐる訴訟に関わってきた計17人の弁護団です。

#### ◆裁判を支え、東電に責任をとらせよう

1月27日、小泉・細川・菅・鳩山・村山の元首相がEUに送った書簡に「多くの子どもたちが甲状腺がんに苦しみ」と記載しました。これに対し山口環境大臣は、「福島県の子どもに放射線による健康被害が生じているという誤った情報を広め、いわれのない差別や偏見を助長する」という批判文書を出しているのです(p.9の【注】にも書かれています)。このような対応をする政権ですので、裁判は長期化する可能性もあります。

再稼働を強行するために事故による健康被害を闇に葬ろうとする政治の圧力に抗して、6名の原告の方々に支援するとともに、裁判の意義を多くの方に伝えること、巨大な東電に立ち向かうための訴訟費用を支援することなどが急務です。すでにクラウドファンディングでは1000万円を超える募金が集まっています。ぜひご協力ください。

<https://readyfor.jp/projects/311supportnetwork>

4月23日、子ども基金は井戸弁護団長の講演会をオンラインで開催します(同封チラシをご参照ください)。多くの方のご参加をお待ちしています。

小寺隆幸

チェルノブイリ子ども基金共同代表

## 黒部ドクターのお話

### コロナが教えてくれた病気の歴史

■以前から精神的な病気は、現代社会が生んだと考えていましたが、身体的な病気については判りませんでした。ところがコロナウイルスのパンデミックで時間に余裕ができ、『人新世の資本論』を読み、時代と歴史の見直しが世界で始まっていることを知りました。『人新世とは何か』、『反穀物の人類史』、『人体 600 万年史』などを読んで、見直しの中身を知りました。それは人間中心の、それも体制を支配していた人たち、近現代では「資本主義の世界観の見直し」でした。本当に進歩とか発展が良いものであったのか、見直しが始まっていたのです。人類は採集生活をしていた時には、ほとんど病気は無かったのです。次いで狩猟が加わり、それで数百万年も続いたのです。その頃の労働時間は一日 5~6 時間でした。その頃には感染症も成人病も癌も精神病も無かったのです。

■何百万年にも及ぶ狩猟採集生活の後、氷河期が終わってから僅か数千年のうちに農業が始まり、農業の時代になったのです。農業はそれぞれ独自に、メソポタミア、中国、中米、アンデス山脈、アメリカ南東部、サハラ以南のアフリカ、ニューギニアの 7 か所です。さらに羊、山羊、豚、牛、馬、鶏などを家畜化し、さらにラマ、犬も家畜化しました。農業が始まってから、労働時間も長くなるが、生産性は高まり、人口も増え、病気も増えました。さらに余剰生産物が出ると、ヒエラルヒー（身分階層性）ができ、文明と共に戦争と奴隷制を生み出しました。また主食作物は、狩猟採集民の食べていた野生の植物よりも、ビタミンやミネラルが不足しました。農民は肉や果実や豆類を追加して食べない限り、栄養不足になる危険がありました。その病気とは、壊血病(ビタミンC 不足)、ペラグラ(ビタミン B2 不足)、脚気(ビタミン B1 不足)、甲状腺腫(ヨウ素不足)、貧血(鉄分不足)な

ど。しかし、最大の問題は数種ないし一種の作物に依存すると、周期的な食料不足や飢饉に弱い。それで栄養不良や餓死が襲いました。またでんぷん質の取り過ぎで虫歯や糖尿病になりやすくなりました。

■生産性が高まり、人口が増えると最大の問題は感染症です。農業の開始で定住することで不潔になりました。そこへネズミや雀が住みつき、ネズミはペスト菌やチフス菌を媒介するノミを運び、雀や鳩はサルモネラ菌やシラミ、ダニを運び、蚊はマラリア、黄熱病、デング熱、フィラリア症、脳炎などを媒介しました。人間は、家畜を飼うことで動物と密接に暮らすことによって、多数の病気をもらってしまいました。結核、はしか、ジフテリアは牛から、ハンセン病は水牛から、インフルエンザは水鳥や豚や鴨から、ペスト、チフス、おそらく天然痘もネズミから。インフルエンザは水鳥から家畜にうつりさらに人間にうつり、進化していき、ほとんどは穏やかだが、致死的なものもあり、それがスペイン風邪のパンデミックでした。ハンセン病、梅毒などやシラミなどの寄生虫や蟻虫など、さらにヘルペスなどの多くのウイルスや細菌の病気で、こうした感染症は 100 種類以上になるといいます。特に疫病が流行する前提には、大集団それも人口の密集した永住部落が必要でした。

■コロナウイルスのパンデミックは別に不思議でもなく、人間が動物界に近づきすぎたことと、適度な感染力と病原性をもったウイルスの出現。さらにそれを広める人間側の抵抗力低下の世界的な広がりがありました。それが世界的になったのは、スペイン風邪と同じ世界の政治、社会、経済の状況が起きていたからでした。戦争、内戦と国と国のいさかい、格差社会と貧困層の拡大、難民たちの世界が広がっていたのです。

黒部信一 小児科医師

「未来の福島子ども基金」代表、「チェルノブイリ子ども基金」顧問、「沖縄・球美の里」理事

<https://blog.goo.ne.jp/kuroshin1941>

## チェルノブイリの歌声 ～みなさまからのメッセージ～



◆カレンダーのどの写真も明るく美しく、人々の純粋さが伝わってきます。豊かな自然の保養所。ベラルーシの人達が自然環境を大切にしているのが羨ましいです。（千葉県 Tさん）

◆今年も素敵なお写真ばかりで、子どもたちの元気な姿に心癒されました。（埼玉県 Oさん）

◆原発事故によって子どもたちに与えてしまった「痕」が、今も、これから先も続く…という現実を、カレンダーによって実感しています。（東京都 Kさん）

◆カレンダーの中のみなさんの笑顔を眺めるのが楽しみな時間です。（東京都 Hさん）

◆尊いお働きを感謝いたします。原発のない世界、子どもたち、すべての人の命が守られますように祈ります。（埼玉県 Kさん）

◆毎年カレンダーを楽しみにしています。写真の方々の年齢が上がっていて、事故がずっと続くのだなあと感じました。みんなの成長がわかるカレンダーですね。（和歌山県 Hさん）

◆日本にいて平和と思っていますが、すぐ近くには悲惨な状況が沢山あり目を瞑っていただけなんだと感じています。自分から動いていける大人になっていこうと思います。次世代に少しでも安心して、過ごせる世の中に変えていきたいです。子どもたちの為に、活動を応援しています。（東京都 Tさん）

◆ニュース 10月号を読みました。チェルノブイリは35年、福島は10年、甲状腺がん、汚染水放出、出口のない日本ですね。（Eさん）

◆カレンダーをありがとうございます。子どもたち（大人たちも）が幸せに思える時間がたくさん訪れますように。（愛知県 Sさん）

◆応援することで私も力をもらっています。（東京都 Kさん）

◆1年が不安の中で過ぎていきました。でもチェルノブイリや福島の人々は何年ももっと不安に暮らしているのだと改めて思います。笑顔の毎日が続くことを祈ります。（東京都 Yさん）

◆ナデジダの保養に参加した子どもたちの抱えている病気は深刻ですね。こんなに幼いときからこれだけの病気を抱えていることがどれほどのことか、いつも心が痛みます。同時に福島の子どものことも思いやられます。（東京都 Uさん）

◆コロナもなかなかおさまらず、ロシアとウクライナの関係も緊張が続いており心配ですね。子どもたちが問題なく過ごせるように祈るばかりです。（奈良県 Sさん）

◆カレンダーはどれも、とてもいい写真！1月の「希望」などほんとに可愛いですね。TBSラジオの番組、しっかり取材されていてびっくりしました。あのコーナー、いいですね。（東京都 Hさん）

### ～ ラジオ番組で紹介されました ～

子ども基金の活動と2022年カレンダー（事務局にて販売中）のことが、ラジオ番組で紹介されました。お聴きくださったみなさま、ありがとうございます。

♪ 2021年12月17日 KBS 京都ラジオ  
『笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ』

番組内の「ほっかほか今朝の聞くサブリ」に、事務局の佐々木が電話出演しました。

♪ 2022年1月8日 TBS ラジオ  
「蓮見孝之 まとめて！土曜日」

番組内の「人権 TODAY」で紹介されました。音声配信は終了しましたが以下に放送内容が写真入りで紹介されています。

<https://www.tbsradio.jp/articles/49307>

**2021年度決算報告書**  
【2021年1月1日～12月31日】

| 収 入             |                   | 支 出                     |                   |
|-----------------|-------------------|-------------------------|-------------------|
| 項 目             | 金 額               | 項 目                     | 金 額               |
| 前期繰越            | 20,144,649        | 救援                      |                   |
| 募金              |                   | 医薬品・物品                  | 4,176,305         |
| 救援一般*1          | 9,117,252         | 保養費                     | 3,972,288         |
| 保養費*2           | 1,088,330         |                         |                   |
|                 |                   | 団体運営費*4                 | 1,023,378         |
| 里子支援*3          | 2,910,620         | 里子支援                    | 3,518,590         |
|                 |                   | 緊急支援*5                  | 1,049,850         |
|                 |                   | 派遣費                     | 0                 |
|                 |                   | 送金・為替手数料*6              | 150,336           |
|                 |                   | 未来の福島こども基金              | 146,054           |
| 救援キャンペーン        | 28,000            | 救援キャンペーン<br>2021年4月イベント | 21,680            |
|                 |                   | 事務運営費                   |                   |
| 購読料・運営費         | 490,886           | 国際 Tel・Fax              | 0                 |
| 預貯金利息           | 147               | 国内 Tel・Fax              | 95,501            |
|                 |                   | 印刷・コピー費                 | 38,810            |
|                 |                   | ニュースほか発送費               | 527,012           |
|                 |                   | 人件費                     | 2,144,670         |
|                 |                   | 交通費                     | 110,902           |
|                 |                   | 事務消耗品費                  | 141,593           |
|                 |                   | 事務所費                    | 783,979           |
|                 |                   | 広告・宣伝費                  | 0                 |
|                 |                   | 資料・会議費                  | 4,620             |
|                 |                   | 国内振込手数料                 | 33,780            |
| 物販売上            |                   | 物販仕入                    |                   |
| 本・ポストカード・CD・民芸品 | 58,300            | 本・ポストカード・CD・民芸品         | 19,200            |
| カレンダー2021       | 222,820           |                         |                   |
| カレンダー2022       | 1,163,634         | カレンダー2022               | 715,124           |
| <b>小 計</b>      | <b>35,224,638</b> | <b>小 計</b>              | <b>18,673,672</b> |
|                 |                   | <b>次期繰越金</b>            | <b>16,550,966</b> |
| <b>合 計</b>      | <b>35,224,638</b> | <b>合 計</b>              | <b>35,224,638</b> |

- \*1 旧振込用紙項目「ウクライナの青年の治療費支援」→「救援一般」としました。
- \*2 旧振込用紙項目「特別保養費」→「保養費」としました。
- \*3 ウクライナの里子支援金のみの金額です。ベラルーシは送金問題のため、2021年末までに里親の方への請求ができませんでした。
- \*4 現地団体のスタッフ給与、事務所費など。
- \*5 緊急支援 15人。
- \*6 ベラルーシ「ナデジダ」、「困難の中の子どもたちへ」の送金問題により、複数回の送金を行わなければなりません。返金手数料と再度の送金手数料が発生し、前年度より増加してしまいました。

\* カレンダーの収入・支出とも次年度にまたがります。2021年度版のカレンダー収益は78万円でした。

2021年度の会計監査の結果、適正であることを認めます。

2022年1月31日  
会計監査

監事 鈴木 由利子  
監事 清水 玲子



# 募金・救援状況



## ●募金状況 2021年10月～2022年1月 (単位：円)

|         | 10月       | 11月       | 12月       | 2022年1月   |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 募金件数    | 43        | 344       | 246       | 102       |
| 救援寄付金   | 2,085,700 | 830,375   | 1,507,642 | 535,307   |
| 保養費     | 55,830    | 228,300   | 196,900   | 137,000   |
| 里子支援    | 12,300    | 30,280    | 0         | 655,700   |
| ニュース購読費 | 6,000     | 98,000    | 66,000    | 12,000    |
| 合計      | 2,159,830 | 1,186,955 | 1,770,542 | 1,340,007 |

\*その他、切手、文房具のご寄付をいただきました。

## ●救援状況 2021年10月～2022年1月 (単位：円)

|                                     |           |
|-------------------------------------|-----------|
| <ウクライナ>                             |           |
| ◎チェルノブイリ子どもたちの生存                    |           |
| 里子支援 (半年分×6人)                       | 207,900   |
| 緊急支援 (半年分×3人)                       | 103,950   |
| 運営費：通信費、家賃、スタッフ給料×2人 (2022年1月～12月分) | 138,600   |
| ◎内分泌代謝研究所                           |           |
| 医薬品 (甲状腺ホルモン剤)                      | 2,310,000 |
| <ベラルーシ>                             |           |
| ◎困難の中子どもたちへ希望を                      |           |
| 里子支援 (半年分×42人)                      | 1,469,715 |
| 緊急支援 (半年分×12人)                      | 419,919   |
| 医薬品 (甲状腺ホルモン剤、カルシウム剤)               | 1,866,305 |
| 運営費：通信費、家賃、スタッフ給料×4人 (2022年1月～12月分) | 711,528   |
| 子どもたちへのクリスマスプレゼント代                  | 90,000    |

※子ども基金が支援したのものにつきましては、現地団体が購入後、領収書と写真を含めた報告を送ってもらっています。

## ♡ 団体名一覧 ♡

(順不同・敬称略)

紙面の都合上個人名は省略させていただきます。ご寄付をいただいたみなさまに心よりお礼を申し上げます。

【10月】榊井書店

【11月】ピースライブインこうち、川和保育園父母の会、日本ウクライナ文化交流協会、稔台教会、福島子ども保養プロジェクト@練馬、日本キリスト教会横浜桐畑教会、鶴川教会図書委員会、川崎市職員労働組合、代々木上原教会、プリムラ音楽教室、おはなしの家

【12月】民宿夢民村、NPO 法人地球っ子、山形の会、(株)アドメテック、ストップブルトニウム神奈川連絡会、(株)栗田工務店、チェルノブイリ子ども基金あいづ、恵泉女学園中学・高等学校宗教部、広島女学院中学高等学校、和らぎヨーガ、社会福祉法人共に生きる会 川和保育園、中振キリストの教会、日本キリスト教会大阪北教会婦人会、リサイクルグループカリーナ、プーシェルアキウ

【2022年1月】友愛富士見町保育園、フォークダンスを楽しむ会、滋賀県教職員組合、婦人民主クラブ、川和保育園父母の会、柴田町社会福祉協議会

## ★2022年チェルノブイリ救援カレンダー 在庫ございます！

新聞各紙にも紹介され多くのおみなさまにお買い求めいただきました。お買い忘れの方、ぜひ3月からお使いください。収益は次号ニュースレターでご報告します。

## ★募金振込口座のご案内★

いつもあたたかいご支援をまことにありがとうございます。同封の振込用紙によるお振込のほか、以下の口座へ直接お振り込みいただけますので、ご都合のよい方法をご利用ください。※振込用紙以外でお振込の場合は、お名前、金額、ご寄付の内容のご連絡をお願いいたします。

(1)郵便振替口座 00160-4-98316 口座名 チェルノブイリ子ども基金

(2)ゆうちょ銀行口座 店番 019 店名 〇一九店(ゼロイチキョウ店)

預金種目 当座0098316 受取人名 チェルノブイリコドモキキ

(3)三菱UFJ銀行 支店名(番号):新宿中央支店(469)

口座番号:普通 1688367 口座名:チェルノブイリ子ども基金



# 事務局から

## ■販売品のご案内

★マトジョーシカのマグネット

縦 6 cm x 横幅 4 cm 1 個 500 円

★マトジョーシカのキーホルダー

縦 4 cm x 横幅 2.5 cm 1 個 500 円

色・柄はお任せください。



★ベラルーシ製リネンクロス

49 cm x 70 cm 1 枚 800 円

色・柄はお任せください。(HP を

ご覧になれる方は番号をご指定下さい。)

●ご注文方法:(1)住所(2)氏名 (3)電話番号(4)

希望品名と数量を明記の上、メール・FAX などでお申し込みください。●送料別(実費)

●お支払い方法:振込用紙を同封しますので、品物が届きましたらお振込みください。



## ■「基金ニュースレター」について

ご寄付をいただいた方には、用途の報告としてニュースレターをお送りしています。また、ニュース購読費(2,000 円/年)も募っております。印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。(※ニュースレターは子ども基金のHPでもご覧いただけます。今後、郵送がご不要の方は、お手数ですが事務局までご連絡をお願いいたします。)

## ■ボランティア募集

ニュース発送作業(年 3 回:2・6・10 月):お手伝いいただける方を募集します。次回は、6 月中旬の予定です。感染対策のため日程・定員が流動的ですので、関心のある方は事務局へお問い合わせ下さい。

場所:東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋駅ビル セントラルプラザ 10 階)

※ボランティア参加ご希望の方は、前日までにメールかお電話でご連絡ください。電話は平日午前 10 時～午後 5 時。留守の場合は伝言をお願いします。

＊＊ ご協力いただいているみなさまへ ＊＊  
振込用紙と領収証につきまして、みなさまにお知らせとお願いです。

すべての方に振込用紙を同封しております  
事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便払込用紙をお送りしております。決して募金を強要するものではありません。また、すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

### 払込取扱票のお名前・ご住所は楷書で ご記入ください

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読しづらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入ください。

### 「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費・寄付金を納入された方で受領確認の連絡をご希望の方に、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

### 「領収証」が必要な方へ

郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認められる領収証です。大切に保管ください。別途領収証がご入り用の際は振込用紙の該当欄に印をつけてください。

## ★編集後記★

この原稿を編集集中、毎日ウクライナ情勢が報じられています。子ども基金が支援しているウクライナの慈善団体は「とても緊張して事態を見守っている」と言います。北京オリンピックでウクライナの選手が「ウクライナに戦争は要らない」と書いた紙を掲げました。ウクライナ、ベラルーシ、ロシアには、それぞれの国で家族や親戚、友人が暮らしていたり、働いていたりにいます。市民は戦争など望んでいません。(事務局)

●チェルノブイリ子ども基金 NEWS 年 3 回(2・6・10 月)発行●

住所 〒177-0041 東京都練馬区石神井町 3-16-15-408

Tel/Fax 03-6767-8808

E-mail: cherno1986@jcom.zaq.ne.jp

◇ウェブサイト <http://ccfj.la.coocan.jp/>

◇事務局ブログ <http://blog.goo.ne.jp/cherno1986jimukyoku/>

※当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。